

センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属高等学校

I 2010年度筆記試験の分析と対応

1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がされた。出題形式や小問の配点で変更された部分もあるが、全体的な傾向は変わっていない。レベルとしては例年通り基本的な問題が多く、全体として設問内容が易化したため、平均点は昨年度より約3点高くなり、118.1点となった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力
第2問B：対話がスムーズに流れるよう、適切な発話を考える能力
第3問A：難しい表現でも、全体の流れから意味を類推する能力
第3問B：発言の内容を要約する能力
が例年通り求められている。

また読解力では、
第3問C：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に思考する能力
第4問：グラフ・表や説明文を参考にして文章を正確に読み取る能力
第5問：2人の証言内容を読み、イラストや英文を正確に把握する能力
第6問：エッセイの流れを正確に追い、話の趣旨をつかみながら長文を読み取る能力
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつかんだ上での確かな情報を読み取る日頃の学習姿勢が問われる。

2. 具体的内容分析

<第1問>

昨年度の小問A～DがA～Bの2題になり、配点も16から14に減った。小問AとBは昨年度と形式は変わらないが問いの数がAは3から4に、Bは2から3にそれぞれ増えた。

A 発音（8点：解答数4）

基本的な単語の発音を問う問題。母音だけでなく子音や黙字にも注意を払いたい。カタカナになっている語の音（wool〔問1〕、smooth〔問2〕）に惑わされないようにする。

B アクセント（6点：解答数3）

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度は全て3音節以上の語であったが、今年度は2、3、4音節の語が1つずつ出題された。音節をしっかりと区切り、カタカナになっている語のアクセント（damage〔問1〕、elevator〔問2〕）に惑わされないようにする。

<第2問>

形式と問題数は昨年度と変わらず。配点は小問Bが各3点（昨年度は各4点）となり、全体では41点に減った（昨年度は44点）。

A 語彙、語法、文法（20点：解答数10）

語彙、イディオム、動詞の用法、時制等を判断する問題。動詞の用法を問う問題（to have been chosen〔問6〕、would have been～ing〔問5〕）は頻出である。語法やコロケーションの力を併せて要求する問題（postpone～until〔問3〕、talk～out of〔問4〕、realize his dream〔問7〕）も相変わらず多い。基本的な動詞（expire〔問2〕）、形容詞（regular〔問8〕）、不可算名詞や同義語

等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

B 対話文完成 (9点: 解答数3)

対話文を完成させる問題。発話数は昨年度と同様3~4である。状況をしっかりつかみ(OK class, [問3せりふ])、文脈の流れを捉え、会話特有の表現(just between you and me, [問2選択肢])に慣れておくことが大切である。

C 語句整序 (12点: 解答数6)

各文の中に含まれる語彙・語法・熟語(what made you so upset with ~ [問1], the 800 yen I owe you for ~ [問2])を使い、意味の通る文を作る問題。使役([問1])、疑問詞([問3])といった文法・構文の知識も必要とされる。

<第3問>

形式は昨年度と変わらないが、配点は小問Aが各5点(昨年度は各4)に増えた。Aの本文の総語数は昨年度より減少し、1問は対話文となった。B、Cの総語数も減少した。

A 語やフレーズの意味類推 (10点: 解答数2)

下線部の単語や表現の意味を全体から類推する問題。パラグラフや対話の中でどのように状況が推移しているのかを正確に読み取り、ヒントとなる語(句)をもとに想像力を働かせる。

B 発言の意図の要約 (18点: 解答数3)

3人の発話の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の単語を使って言い換えている(doctors and nurses を medical professionalsで [空欄29], you should always show consideration を special attention should be paidで [空欄30])ので、幅広い語彙と、ポイントを押さえる柔軟な読解力が必要とされる。

C 適文補充 (18点: 解答数3)

指定された空欄に選択肢で与えられた適切な文や文の一部を補う問題。

選択肢の文中、及び挿入箇所前後の代名詞や指示語、接続する語(句)に気をつけ、論が正しく展開するよう当てはめてゆく。[空欄32]では、その後の具体例をまとめる文、[空欄33]では、次のThe former, ~ The latter ~から2つの対照的な事象が述べられていることに気付くかがポイント。

<第4問>

形式は昨年度と変わらなかったが、小問Bの配

点が各5点(昨年度は各6)に減った。

A グラフ読み取り問題 (18点: 解答数3)

本文とグラフを参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめ、設問では情報の内容を適切な表現で行う。本文中のtheir reasons for coming to Japan seem to be diversifyingが選択肢のa wider selection of attractions [問1]と対応していることを見抜く読解力も必要とされる。

B 表読み取り問題 (15点: 解答数3)

フライト・スケジュールから適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。

<第5問> (30点: 解答数5)

昨年度の3種類の出題から、1種類のみイラスト付き読解問題となった。解答数は昨年度の3から5に増え、配点も18から30と大幅に増えた。総語数は昨年度より減少した。

2人の証言をもとに図と状況を合わせ、それぞれの選択肢がどの時点で他と違うのか、一つひとつの事項を最後まで順を追って確認していく慎重さが要求される。

<第6問> (36点: 解答数6)

設問の配点は昨年度と変わらないが、設問数が6(昨年度は7)になり、配点は36点(昨年度は42)に減った。総語数は昨年度より約300減少した。

エッセイを読んで質問に答える問題。各パラグラフをトピック別に分類する問題(問6)や論全体の意図をまとめる問題(問5)は例年通り出されている。各パラグラフのポイントをつかみ、話がどのように展開し、話者が何を言おうとしているのか、という深い読み方ができる力を養っておきたい。また、正解の選択肢は本文に載っていない単語(表現)で求められる場合も多いので、基本的な類義語力も必要である。

3. 昨年度から変化のあった点

- ①総語数が2割弱減少した。
- ②マーク数が51となり、1増加した。
- ③第1問が小問A~Dの構成からA~Bに変わり、マーク数はA、Bともに各1問増となった。全体の配点は2点減少した。

- ④第2問小問Bの配点が各3と1点少なくなった。
- ⑤第3問小問Aの配点が各5と1点増えた。
- ⑥第4問小問Bの配点が各5と1点減った。
- ⑦第5問が小問A～Cの構成が1つになり、マーク数は2増えて5に、全体の配点は30と、12点の大幅増となった。
- ⑧第6問のマーク数が6と1減り、それに伴い、全体の配点は6減少した。

4. 新傾向が見られる点

- ①第5問のイラスト付き読解問題はイラスト選択が1問になり、他は読解問題となった。

5. 日頃の学習で大切なこと

①多面的に語彙を増やす

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるというのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換など、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも、想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。また、カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語とつながりがある英語特有の表現も身につけたい。主語が何で

あるかによる動詞の用法の違い（someone realizes one's dreamとdreams come true〔第1問 問7〕）等、ある単語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのかに気を配る習慣を身につけておきたい。

③英語を聞き、自ら口にする

アクセント・強勢・構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払って日頃から英語を聞き、音読をすることが大切である。音読をするためには、ただ音をなぞるだけではなく内容を理解する必要があるし、何回も繰り返かえて読み込んでゆけば、なによりも英語の音に対する興味・関心が必ずや増し、同時にリスニング試験の対策にもなり得る。

④論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論の展開がどのようになっているかをパラグラフ中心に考える。パラグラフがどのように構成されているか、全体の論調を捉えてから各パラグラフのキーセンテンスを探す。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。

⑤多読を心がける

80分で4,000語程度の分量の英語を読みこなすには、ふだんから500～1,000語の文章をある程度のスピードをもって読むことが大切である。授業では精読を中心に行っているが、たまには様々な分野の文章に触れるような機会を与え、分量をこなす読み方も覚えさせたい。

Ⅱ 2010年度リスニング試験の分析と対応

1. 全体的な傾向

過去4年間ほぼ同じ出題形式である。解答数、配点、読まれる総語数(1000語強)はいずれも昨年度と同じである。読み上げ速度も昨年度とほぼ同じでナチュラルな感じである。問題音声も設問ごとに2回流された。今年度は比較的素直に英語の内容を問う基本的な問題が多く、平均点は昨年度よりやや上がり一昨年度とほぼ同じであった。(今年度29.39点、昨年度24.03点、一昨年度29.45点)。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起きうる身近な話題がテーマになっている。

2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル(12点:解答数6)

- 2人の対話を聞き、イラスト、数字、語句を選択する

●各対話の総語数:30語前後

イラストや図、数字を見ながら英語を聞く。最初の台詞で状況をだまかに把握し、求められる情報を的確に探し出す。対話に出てくる語(句)や数字が全て答えになるとは限らず、簡単な計算をする設問もある。キーワードは2番目～4番目のせりふに出てくるが、I want to grow a beard

〔問2〕のwant toを聞き逃さずに聞く注意力が求められたり、I'll go to an ATM.は選択肢のGet money.の意味と同じになる〔問3〕ことを見抜く能力も問われる。

<第2問>対話応答補充（14点：解答数7）

●対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

●各対話の語数：20語前後

問8

Man : The coffee maker's broken.

Woman : Can we get it fixed?

Man : That would cost more than getting a new one.

選択肢：

- ① I didn't know new ones were so expensive.
- ② So why don't we have it repaired?
- ③ Thanks for asking, but I already had some.
- ④ Well, I guess we should buy one then. (正解)

相手の質問した（述べた）ことへの自然な反応を考える。本年度は応答の前の台詞はすべて平叙文であった。最初の2つのせりふから会話の場面や状況を想像したい。また、to have good days and bad days〔問13〕等、日常会話でよく使用されるフレーズにも慣れておきたい。

<第3問A>対話内容Q&A（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

●各対話の総語数：50語前後

問15

Woman : How do you think this brown coat looks on me?

Man : It's cute. You look like a teddy bear.

Woman : That's it. I'm not going to get this coat.

Man : Why not? I said you look cute.

Woman : You said I look like a teddy bear.

Man : What's wrong with that?

Woman : Never mind.

質問：Why won't the woman buy the coat?

選択肢：

- ① The coat isn't affordable.
- ② The coat isn't her size.
- ③ The man doesn't think the coat looks nice

on her.

④ The man thinks she looks like a stuffed animal. (正解)

5W1Hで始まる質問の答えを対話から探す。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。事前に選択肢を読み、最初のせりふを聞いた段階で場面が想像できるようにしたい。せりふのa teddy bearが選択肢のa stuffed animal〔問15〕の、せりふのpoisonousが選択肢のdangerous〔問16〕の言い換えになっていることがわかるかがポイントとなる。

<第3問B>対話ビジュアル（6点：解答数3）

●対話を聞き、その内容からわかることを表の空所に埋める

●対話の総語数：約150語

聞き得た情報を順に図表に当てはめてゆく。選択肢の数字がそのまま読まれるので順に確定していけばよいが、by 9%, as did people in their late 50s to early 60s〔解答欄19〕のように、代動詞が指す内容を理解する力も問われている。また、情報は上から順に出てくるとは限らないので注意が必要。

<第4問A>

Short Passage 内容Q&A（6点：解答数3）

●Short Passageを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●各せりふの総語数：100語前後

問22

As a professional photographer I would like to give you some suggestions for successful landscape photography. In winter, for example, when the days are short, you need to know where you're going and what you want to photograph. You can get familiar with the area you're planning to visit by reading guidebooks and studying maps. Then, you'll know beforehand where the most attractive locations are, rather than leaving it to chance. At the location, you may need to get off the main path, so you should be careful. To take a good photo, it may be necessary to be in freezing conditions which might be dangerous.

質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねてゆき、求められる情報の所在を明らかにする。選択肢では答えとなる語が別の表現で表わされることがある (reading guidebooks and studying maps を doing background research に等) 場合も多い。

<第4問B> 説明文内容Q&A (6点: 解答数3)

●説明文を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

●説明文の語数: 約190語

質問文に目を通し、事前にどれだけの状況想定ができるかがポイント。あとは話の流れに沿って順に問題に当たってゆく。要求された情報を正確に取り出す力が要求されるが、ここでも選択肢では答えとなる語が別の表現で表わされている (the musicians leave the stage one by one ~ the two violinists who are left put down their instruments and walk away from the stage を No one is left on stage. に [問23]、They missed their families and the simple comforts of home. を The orchestra members were homesick. に [問25] 等)。メモを取りながら質問されるポイントの個所を絞って聞くことが大切である。また、1回目と2回目の読み上げの間に約40秒のポーズがあるので、情報が出揃った段階で各問の答えに目星をつけておき、2回目は確認の作業に当てたい。

3. 対応のポイント

①状況・場面を想像する力を育成する

事前に問題指示文、選択肢、イラスト等に目を通し内容を推測しておく。聞く前に精神的なプレッシャーをできるだけ少なくすることも正しい聞き取りへの第一歩である。

②会話特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、up to [問5]、turn in [問14]、keep ~ in mind [問16]、free of [問21]、leave ~ to chance [問22] のようなフレーズは知っているだけではなく、聞き慣れておくようにもしておきたい。

③対話の流れや方向性をつかむ

最後の発言に対する相手の応答を考える場合 (第2問)、答えとなる情報はそのまま与えられて

いる訳ではない。それまでの話の流れを理解し、これからどのような展開になるのかを推測する能力が求められる。その際、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない。最後まで慎重に状況を確認したい。

④言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても選択肢を読み取る力は要求される。流れる英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、ある表現を別の形で言い換えてある場合も多くある。正答のカギとなる情報をきちんと整理する能力も求められる。

⑤全部完璧に聞き取れなくてもよしとする

筆記試験で英文を一字一句完璧に理解する必要がないのはリスニングにおいても当てはまる。リスニングでは聞き取れなかった箇所を悩み込んでしまうと次を聞き逃すことになる。たとえ理解できなかった部分があってもそのまま流し、「後からさかのぼって推測すればいい」と思うくらいの余裕が欲しい。

4. 日頃の学習で大切なこと

①英語の音を聞くことを習慣にする

「継続は力なり」とよく言われるように1日5分間でも英語を聞き続けることが大切である。センター試験の英語はナチュラルスピードよりも若干遅く話され、独特のリエゾンもあまりない標準的なものである。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣としておき、英語を聞く抵抗感をできるだけ少なくしたい。

②聞いた音を真似して声に出す

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。そのためには、耳に入ってきた音を実際に口にする shadowing や、英語での Qs & As、dictation 等の基本練習を日頃から行っておきたい。

③語彙を増やし、自分で表現する練習をする

提供される情報の内容を理解するためには基本的な語彙が必要である。知らない単語は聞き取ることができないし、あやふやな理解では誤った情報を受け取ってしまう可能性がある。また、内容を整理して別の表現で言い換える練習も積んでおきたい。